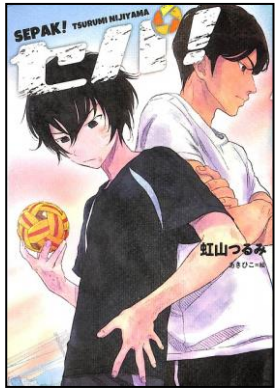
本がいっぱい Teen's 2020

おすすめのほん

『みかん、好き？』《ＹＦウ》

魚住直子／著　講談社

「みかん、好き？」じいちゃんの畑で出会った女の子は、拓海（たくみ）に会うと、突然そう言った。じいちゃんのみかんに感動して、東京からこの島に来たらしい。拓海は、女の子と一緒にじいちゃんのみかん畑を手伝うことになったが、変な方言を話すその子が気になり…。



『セパ！』《Ｆニ》

虹山つるみ／作　あきひこ／絵　ポプラ社

なんでもできる兄への劣等感から心を閉ざし、なにごとにも無気力になってしまった中学生の翔（かける）。ある日、セパタクローというスポーツをする小学生・レンと出会う。これを機に、翔は「空中の格闘技」と呼ばれるセパタクローに夢中になり、情熱を取り戻していくが…。

TOKOROZAWA CITY LIBRARY
所沢市立所沢図書館

『ソンジュの見た星』《Ｙ９３．４》

リ・ソンジュ／著　スーザン・マクレランド／著
野沢佳織／訳　徳間書店

１１歳のソンジュは、北朝鮮の平壌（ピョンヤン）で両親と豊かな生活をしていたが、父の失脚により、地方で過酷な生活をおくることになった。やがて、飢饉に見舞われ、食料を求めて家を出た父母が行方不明に。その後、家も奪われ、全てを失ったソンジュは、路上で生きぬく道を選んだ。

『月白青船山（つきしろあおふねやま）』《Ｆク》

朽木祥／作　岩波書店

この夏、北鎌倉で暮らすことになった兵吾（ひょうご）と主税（ちから）。ある日、地元の少女、静音（しずね）と知り合い、切り通しを段ボール板ですべって遊んでいた。雷が鳴りだして、すべりだしたとたん、三人は転（ころ）がり落ちていった。気がつくと、そこは、大きな枝垂（しだ）れ桜が立つ、見たことのない場所で…。

『マンボウは上を向いてねむるのか』《４８》

澤井悦郎／著　ポプラ社

澤井さんはマンボウの分類の研究で「マンボウ博士」になりました。それでもマンボウには、まだまだわかっていないことがいっぱい。そこで、博士はマンボウ好きの人に呼びかけて、水族館でマンボウ観察を始めました。マンボウの謎は解けるのか。

『かくれ家のアンネ・フランク』《２８．９》

J・ファン・デル・モーレン／作　西村由美／訳　岩波書店

ユダヤ人の少女、アンネ。家族や友人たちと日々を楽しく過ごしていたが、戦争はアンネの日常を容赦なく奪い去っていった。ナチス・ドイツによるユダヤ人迫害、連行。生きのびるためにアンネたちはかくれ家での生活を余儀なくされたが…。

実際にかくれ家で書かれた『アンネの日記』（Ａ・フランク／著　文藝春秋《Y93.4》）も一緒にどうぞ。

『火狩りの王〈一〉春ノ火』《Ｆヒ》

日向理恵子／作　山田章博／絵　ほるぷ出版

紙漉きの村で生まれ育った灯子は、ある日、黒い森で炎魔と呼ばれる黒い獣に襲われた。炎魔を狩る火狩りの男が助けてくれたが、男は深手を負い、死んでしまう。男が残した、犬のかなたと、金の鎌を家族へ返すため、灯子は首都へと向かうが…。

『徳治郎とボク』《Ｆハ》

花形みつる／著　理論社

徳治郎、それはボクの頑固なお祖父ちゃんの名前。「ちっせぇとき」の話を聞くうちに、ボクはお祖父ちゃんが大好きになるけれど、友だちと遊ぶ方が面白くて、会いに行くことがだんだん面倒になっていった。そんな時、お祖父ちゃんの命がもう長くないことを知り…。

『11 番目の取引』《Ｆホ》

アリッサ・ホリングスワース／作　もりうちすみこ／訳　鈴木出版

両親をテロで亡くし、祖父とアフガニスタンからアメリカに来たサミ。盗まれて楽器店に売られた祖父の楽器・ルバーブを買い戻すため、友達の協力で物を売り、物々交換をするなどの取引をしていく。店主との約束の日まで、サミは間に合うのか。

『ロビンソン・クルーソー』《Ｆデ》

ダニエル・デフォー／作
海保眞夫／訳　岩波書店

航海中の船が嵐にあい、ひとり生き残った主人公。絶海の孤島で、残ったのはわずかな道具と食料だけ。助けは来るのか。猛獣に襲われたらどうするのか。生きのびるための孤独な闘いが始まった。

『星くずクライミング』《ＹＦカ》

樫崎茜／作　杉山巧／画　くもん出版

中学１年生のあかりは、クライミングのジュニア大会で右手を故障し、挫折してしまう。一方、同い年で目の不自由な昴は、ブラインドクライミングに挑戦する。あかりは昴のナビゲーターとして、二人三脚で壁を登ろうとするが…。

『ミイラ学』《２４》

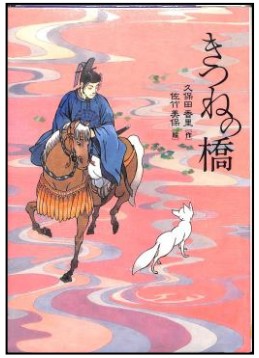
タマラ・バウワー／著・絵　こどもくらぶ／訳・編　今人舎

古代エジプトで、王妃の父イウヤがこの世を去った。王室御用達のミイラ職人パネブと息子イピーたちは、死者の体を永遠に保存するためミイラづくりに取りかかる。３０００年の時が経った今も残るミイラづくりの儀式とは…。

『ぼくにだけ見えるジェシカ』《ＹＦノ》

アンドリュー・ノリス／作　橋本恵／訳　徳間書店

ファッションが大好きな男の子、フランシス。彼はそのせいで孤立していた。そんなある日、ジェシカという女の子の幽霊と出会う。どうしてフランシスにはジェシカの姿が見えるのか。なぜ、ジェシカは死んだのか。ジェシカとの出会いを通じて、フランシスは変わり始める。



『きつねの橋』《Ｆク》

久保田香里／作　佐竹美保／絵　偕成社

太刀の得意な平貞道と弓の得意な平季武。ふたりは貴族の従者として主に認められたいと機会を待っていた。そこへ初瀬もうでの警護の役がまわってきて、盗賊と対決することに。ひょんなことから助けたきつねの葉月も加勢して、無事に役目を終えたが…。

『故郷の味は海をこえて』《３６》

安田菜津紀／著・写真　ポプラ社

命の危険から逃れるため、生まれた国を離れ、難民として日本で暮らす人たち。しかし、穏やかな日常を取り戻すための難民認定には大きな困難が待ち受けていた。遠く離れた故郷の料理を通じて、彼らのこれまでの道のりをたどっていく。